



久保井 永三
(統一)

**冒険活動センター
敷地内の土壌問題
今後の対策は**

問 28年2月末から3月に、土壌汚染対策法に基づき、冒険活動センター敷地内の一部で試料採取が実施され46地点のうち、27地点で、鉛の含有量が、法で定める基準値を超過していた。

答 ①子どもたちが利用する施設の敷地内で、基準値を超えている事実をどう受け止めるのか。
②今後の対策をどうするのか。
③原因を特定する調査を、いつどのように行うのか。

答 ①第2駐車場付近の一部で、鉛の土壌含有量が、法で定める基準値を超えていることを確認し

たが、公衆衛生学の専門家から、通常の施設利用や日常生活において健康被害は生じるものではないとの見解を得ている。

また、当該区域の立入禁止措置などの対策を取っているほか、これまでの調査で、利用者が主に活動する場所については基準値以下であり、周辺の河川や地下水への影響も生じていないことから、施設の安全性は確保されていると考えている。

②基準超過範囲を確定し、土壌の封じ込めなど、法に基づく適切な対策を実施していく。

引き続き利用者や周辺住民の安全・安心の確保のため、適切に対応していく。

③7月の本格的な調査着手に向け準備しており、有識者等からの意見を聴取しながら調査を進め、結果も適宜公表していく。

その他の質問項目
①上下水道②LRT事業③入札④消防活動及び防災無線



福田 久美子
(共産党)

**病院譲渡を巡る
情報提供に疑問**

問 JCHOうつのみや病院譲渡問題について聞く。

①JCHOうつのみや病院が地域医療・介護に果たしている役割をどう評価しているのか。

②地元連合自治会への説明会では、譲渡を申請した法人が厚生労働大臣に提出した譲渡申請書及び市長の意見照会に対する「譲渡に反対」との市医師会の回答が公表されずに進められた。

公正な判断をするのに必要な情報が市から提供されていない状態だったのではないか。

答 ①JCHOうつのみや病院は、雀宮地域に根差した中核病院であると

ともに、二次救急医療や災害医療などを担う拠点病院として、地域の医療・介護に欠かせない存在であると考えている。

②譲渡申請書は、直接厚生労働大臣に提出されたものであるため、市では公表しなかった。

また、市医師会の回答の公表については、市が国に回答するにあたり、市医師会には地域医療を担う立場から、地元連合自治会には病院の利用者としての立場から声を聴くものであるため、公表しなかった。

その他の質問項目
①子育て日本一と教育をめぐる課題(子どもの貧困対策、子どもの家と留守家庭児童会、児童相談所の設置、特別支援教育)②LRT③安全・安心な保育行政と「保育園に落ちない宇都宮」といふ事件、保育士の処遇改善、保育士配置要件弾力化、待機児童対策



西 房美
(緑の党)

**有害な農薬の使用
を減らすべき**

問 世界中でミツバチの大量死が発生しており、日本でもミツバチへの被害が広がっている。野菜や果物などミツバチや昆虫がいないと花が咲いても受粉が行われなくなり実がならず、収穫できなくなる恐れがある。

農薬は子供への影響も懸念されることから、使用を減らしてはどうか。

また、ネオニコチノイド系農薬が人間の身体に与える影響と、残留農薬検査の状況について聞く。

答 農薬は国の責務によつて、人の健康に対する影響や水質、水生生物などへの影響、病害虫防除の効果など、様々な観点から審査が行われてお

り、安全性が確認されたもののみが使用可能となっている。

また、ネオニコチノイド系の農薬は、国の諮問機関である食品安全委員会によると毒性は弱いとされており、使用基準が遵守されることで安全性は担保されるものと考えている。

本市で生産され、JAに集荷された農作物については、全品目、JAが出荷前に検査機関に委託し、農薬の残留検査を実施している。

良質な農作物を安定的に提供するため、今後とも関係機関と連携し、農薬の適切な使用の徹底を図っていく。

その他の質問項目
①障害者差別解消法②特定疾患患者福祉手当③犬・猫の殺処分④農地転用の諸問題⑤JCHOうつのみや病院⑥LRT

